沢谷公民館だより

第100号
平成25年2月20日

小雪舞う中 とんど焼き開催

今月のトピックス

☆小雪舞う中
とんど焼き開催(１面)

☆猿は地域全体で
追い払おう!!(２面)

☆キーフック作りに
チャレンジ!!(２面)

☆第１００号
記念特集!!(３面)

☆第２回連合自治会長会が
開催される(４面)

☆広島市己斐との
交流について(４面)

☆沢谷の名木・巨木が
文化財指定に(５面)

☆沢谷の赤ちゃん(５面)

☆今月の地域おこし協力隊
お知らせ・行事(６面)

今年で第2回目の文化体育部主催による「とんど焼き」が小雪の舞う1月27日(日曜日)、朝9時から交流センターグラウンドで開催されました。

前日までは雪もなく、役員は午後から集まって真ん中に竹を立てたり井桁に木を組んですっかり準備は整っていました。ところが、朝になってみると夜の間に降った雪で約20センチの降雪。グラウンドは一面真っ白の銀世界。朝からあわてて除雪機で雪かきに追われるはめに(汗)。

9時半頃には注連縄など持った地域の人約60人が集まって神事が始まりました。

高く積んだ井桁の上に注連縄などを積み上げ、その前にテントを立て、中に祭壇を設けて千原八幡宮の高橋宮司にお祓いをしていただきました。

神事の後、たいまつに火をつけて、四方から点火しました。今年のとんど焼きは、事前に準備された乾燥した材木で井桁を組んでおり、昨年とは違って勢いよく燃え上がって、今年の無病息災、五穀豊穣をお願いする最高のとんど焼きになりました。

途中で真ん中の青竹が大きな音で弾けてみんなびっくり。この竹が弾ける音には災いを退け、正月に浮かれた人々を現実世界に呼び戻すという意味もあるそうです。

とんど焼きのあとは、役員や女性の方々によるぜんざいが用意され、和室で子供たちやお年寄りまでみんな一緒においしくいただきました。

体の芯から温まりました(^▽^)

猿は地域全体で追い払おう!!

沢谷地域にもとうとうサルの群れがやってきて、昨年秋ごろから石原や湯谷などで柿や柚子、大根を食べられたという被害報告が上がってきました。

そうしたことから猿の被害防止について勉強しようと、平成 25 年 1 月 16 日(水)に町が主催した鳥獣被害研修会（会場：吾郷地域栗原の畑）に、早朝から君谷地域や滝原など被害にあった方々約５０名と、沢谷地域から熊見、原、石原の各自治会と地域おこし協力隊の６名が参加しました。

会場では、大田市川合町にある農業研究センター鳥獣害研究グループの江口氏の説明で勉強会が始まり、次のようなお話がありました。

『冬場の果樹の剪定で、枝を道路などに長く出さないことが大事。柵をしても柵から枝が出ていると、動物に餌付けをしていると同じで、動物は柵を見つけるとそこにエサがあるということを学習する。剪定も思い切って低くして、作業のしやすい脚立を使わないで収穫できるようにしたほうが良い。』

そのあと青空サロンに移動して、そこでパイプで低い棚を作って果樹を栽培している様子と、周囲の果樹を切って柵から出ないようにしている状況を見学しました。そこでは実際の猿の追い払いについて話を伺いました。

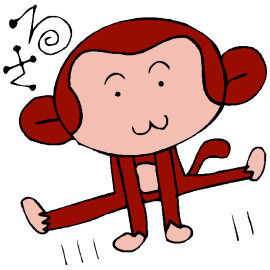
『猿を追い払うための花火は、中国製で安いものがあり火薬が多くないほうが良い。多いと山の中に着地してから火が出て、火災になる可能性がある。発射する角度は 45 度くらいで、1 回発射して追い払ってから、再度追いかけてまた発射するのが良い。

また隣近所で連携して、みんなで広い範囲で追い払うようにすると効果があり、この地域はエサもないし、とにかく怖いところだと教えることが大切で、猿を見つけたら見過ごさないで必ず追い払うことが大事だ。

日暮れ前に猿が騒いでいると必ずその近くで寝て、次の朝に餌を狙って行動する習性があり、猿は人間同様に夜は目が見えないので、寝静まった頃にライトで照らして一斉に花火を打ち込むとよい。パニックになって逃げ場を失ってしまい、母猿が子供を置いて逃げるので、子と離れ離れになってしまう可能性があるので、猿は寝込みを襲うのが効果的だ。

猿は加害者でなく、餌付けした人間のほうが加害者。果樹や野菜を残しておいた人間が餌付けして餌場を作ったことになる。』と話がありました。

参加した皆さんは質問などをして有意義な勉強会となりました。



キーフック作りにチャレンジ!!

1月23日(水)今回のチャレンジ教室は、講師に梅木麻矢子さん(千原)を迎え、『トールペイントでキーフック作り』に挑戦しました。

ガスバーナーで木の表面に焦げ目を入れ(写真下)、新聞紙で磨きツヤを出す作業や、ボンドで細かい飾りを付けたりと難しい作業もありましたが、素敵なキーフックが出来上がり、皆さん満足しておられました。

◆せつぶん会(子育て支援センター)◆

ちょっぴり早い豆まき会が１月２２日（火）開催されました。鬼は～外、福は～内…鬼を見て泣き出してしまう子も(泣)。でも最後はみんなで仲良く写真撮影！カシャッ

第１００号記念特集！！

平成１６年１１月１９日に第１号沢谷公民館だよりが発行されてから、皆様のご協力のお陰で今月号で第１００号を発行することが出来ました。ありがとうございました。

これを記念して、交流センターで勤務されていた職員の方々に、勤務されていた頃をちょっと思い出してもらい（だより作成での思い出など）コメントを頂きました。

沢谷公民館だより「第１００号」おめでとうございます。公民館職員として勤務となり、第１号の「公民館だより」を発行することになりましたが、何から手を付けていいかわからず、訪れた人から情報をもらい、カメラを持って地域を取材することになりました。今まで知らなかった住民の方の活動など知ることができ、１年半の期間でしたが、地域の方々の協力で楽しく取材ができ感謝しています。

これからも沢谷地域の情報誌としてかんばってください。

添谷 正夫

大畠 修二

沢谷公民館だより１００号発刊、おめでとうございます。

私は、平成１８～１９年の２年間勤務しておりました。その間地域の皆様には、大変お世話になりありがとうございました。

公民館合宿で小学生高学年を対象とした「古きよき昔の遊び」を地域の方と一緒に実施ができたことや敬老会での寸劇、チャリティーへの参加など、なつかしく、よい経験をさせてもらいました。特に当時の木村稔所長様には感謝をしています。

また、当時沢谷地域連合自治会では、沢谷地域元気な集落づくり事業の取組が真っ最中で、名所・史跡の案内板、酒谷口番所、境木、沢谷中央市場の設置や桜、モミジ植栽など整備が進められていて、これらの地域資源を活用し地域の皆さんがいきいきと活動されていることすばらしいと思っていました。これからも益々地域の皆さんが元気で、お互いを支え合って暮らしやすい地域づくりに参画していただけたらと思います。

『沢谷公民館だより』第１００号目の発行おめでとうございます。

早いものですね。私は平成１７年４月から平成２１年３月までの４年間、沢谷交流センタに勤務させて頂きました。交流センターへの出勤初日、上川戸の信号機を曲がってＪＲ沢谷駅付近まで車を走らせた時、目の前の素晴らしい桜街道が広がり、元気がわいてきたことを今でも覚えています。地域の皆さんの温かいご支援や素晴らしいスタッフに助けられ、充実した４年間を過ごさせて頂きました。

これからも、沢谷交流センターが地域の核として、住民の皆さんのオアシスとなることを期待しています。地域が元気であってこそ、町の活性化はあると思います。

木村 稔

花田 昇吾

沢谷公民館だより１００号記念発行おめでとうございます。

地域の情報満載の公民館だより、当初は白黒の公民館だよりでスタートしました。

たくさんの配布の中で目立にくかった公民館だより、せっかく綺麗に咲いた花なのに地域の皆さんに見て戴きたい情報、やっとの思いで色刷りの公民館だよりになり改めて地域の皆さんと一緒に協働の町づくりが再スタートすることが出来たような気が致しました。

地域の皆さんからお寄せいただきます情報に感謝申し上げるとともに更なる地域の活性化に寄与できる公民館だよりをご期待申し上げます。

櫻井 志保

公民館だより１００号突破おめでとうございます。たより作成の思い出は、なんといっても取材です。写真の腕がイマイチな私は、皆様に声を掛けて頂き随分と背中を押してもらいました。取材中にカメラが水没したり（人為災害）、参加していたら写真を撮り忘れたりと青ざめる場面も。〆切前には、所長と原稿を睨めっこしながらも発行できたのは、皆様のおかげです。１００号は皆様あってのこと、これからも沢谷地域が元気でありますように！

沢谷公民館だよりの発行が、今回１００号と聞き、公民館に勤務し少しでも発行に携った者には、大変嬉しいことです。

私が勤務した平成２２年４月は、６６号から翌年の３月の７７号の発行でした。振り返ってみますと、公民館職員が２人とも異動で入れ替わったこともあり、また当初この仕事が慣れていない事もあり、何を載せて良いのかと思い悩んだことです。でもおかげさまで沢谷地域の皆さん活発な活動により、またご親切にその都度声を掛けていただき、多くの取材に協力していただきました。おかげで期日に遅れることなく発行ができ安堵と感謝の勤務でした。

今は毎月の公民館だよりの発行を楽しみにしております。

高橋 智恵

沢谷公民館が毎月発行している公民館だよりがとうとう１００号になりました。平成２３年４月からは、連合自治会だよりと一緒になって内容も盛りだくさんになりました。

１００号続いたのも、今までの公民館職員の皆様の頑張りがあったからこそと感謝しております。今後も地域の皆様から『読んで面白かったでー。』と言われるような広報誌を目指して頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

沢谷交流センター所長　田邊 積

第2回連合自治会長会が開催される

1月23日(水)午後1時30分から、今年度第2回目の連合自治会長会が開発センターで開催されました。

会議では最初に景山町長の挨拶で始まり、そのあと資料を基に各課長から伝達事項の説明がありました。この会議は毎年2回程度、各連合自治会長を集めて開催され、町からその年の主な事業や制度の改正、住民への周知事項など説明されるものです。沢谷地域ではそのあとに地域担当職員と各自治会長が集まって詳しく説明して、各自治会に帰って常会などで各世帯へ周知をお願いしています。

今回の会議では、総務課からＬＥＤ防犯灯の助成要望のとりまとめや防災士の育成について説明があり、企画課からはＩＰ告知端末を使って各自治会からも放送ができるようになったこと、現在の防災無線がデジタル化されることに伴い各世帯の子機が来年度初めから順次更新されることなどが説明されました。ほかの課からの説明事項は、2月8日開催した自治会長会で説明を行いました。

会議の冒頭には品川議会議長から三江線についてバスによる増便の実験もあったが、依然低い利用率であり、ＪＲ米子支社へ要望など行ったという経過の報告がありました。廃止に向けての前段ではないという話はあったものの、１００％安心はできないので住民あげての利用促進が必要と話されました。

最後に意見交換があり、各連合自治会長から説明内容や行政全般についての質問や意見があり、当日の会議は終了しました。

広島市己斐との交流について

昨年秋に開催された広島市西区己斐公民館祭りに、沢谷地域から農産物を出品し好評を受けたことは公民館便り11月号で紹介したとおりです。

己斐地区は広島市西区の西広島駅周辺にあり、美郷町とは25年前から子供交流やイベント交流を行っており、産業祭鴨山駕籠かき大会にも毎年参加してもらっています。

この己斐地区ともっと交流を深めて沢谷地区も元気を出そうと、今年の夏には己斐の子供たちを沢谷でホームスティさせようという計画が持ち上がりました。以前には夏に交流センターでそば打ち体験など行ったこともあり、また25年前には沢谷の各家庭でホームスティをした経験もあります。高齢者の二人世帯や独居家庭が増える中、子供たちのホームスティを通じて新しい出会いや交流が始まることが期待されています。

先般役員が己斐地区を訪問して今後の交流

計画について話をしてきました。沢谷地域の思いをお話ししてこれからの子供交流やイベント交流、農村体験などいろいろな方面で連携できないか意見交換をしました。

地域の人口減少が進み、荒廃地が増える現状で、地域おこし協力隊やU・Iターン、町外との交流など幅広く連携の手をつなぎながら、地域づくりを進めることが求められています。

沢谷の名木・巨木が文化財指定に

沢谷地域には「おおち伝承館の前川桜」や「旧沢谷小学校のイロハモミジ」「円立寺のスダジイ」など巨木があり、地域の人々から長く親しまれてきました。

近年、花の谷にある樹齢500年の「エドヒガンザクラ」が発見され、また酒谷には同じく樹齢500年の「カツラ」の木もあり、県の樹医や文化財審議会委員の方々により『県内でも有数の巨木である。』と評価をいただいています。

こうした名木・巨木を大切に守り、地域住民の誇りとなる景観資源とし、地域づくりに活用しようと昨年から連合自治会でも動きを始めています。

まず県の指定文化財『天然記念物』に指定してもらおうと、平成23年8月に県の教育委員会へ「イロハモミジ」と「エドヒガンザクラ」「カツラ」の3本について情報提供をし、また平成24年6月には町の教育委員会にも同じく情報提供を行ってきました。

県では県内の状況を見ながらということで若干の時間がかかっていますが、町では1月に文化財保護審議会が開催され、2月4日の教育委員会において「花の谷のエドヒガンザクラ」と「酒谷のカツラ」「旧沢谷小学校のイロハモミジ」に加えて「おおち伝承館の前川桜」が文化財に指定されました。

連合自治会ではこれを受け、それぞれの木に説明看板を設置する予定で、桜が咲き誇る時期には訪れる方々の目に留まる予定です。

また酒谷八幡宮の銀杏の木や坂根にある桜、熊見の枝垂桜など名木はまだまだたくさんあり、順次紹介していきたいと思います。

昨年秋には町の『誇りの持てるふるさとづくり事業』の採択を受け、今春にかけて花の谷のエドヒガンザクラへの散策路を整備したり、酒谷のカツラへ降りる階段を整備することにしており、銀山街道とともに新たな観光資源が誕生しようとしています。巨木に出会うツアーなど開催しながら、桜街道やシャクナゲ公園などとともに、たくさんの方々に沢谷の自然を楽しんでもらいたいものです。

◆沢谷交流センターからお知らせ◆

＝休館のお知らせ＝

２月２７日(水)は、チャレンジ教室のため、交流センターを午前中休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

＝映画上映会のお知らせ＝

３月９日(土)１３時より、沢谷公民館多目的室においてAGO HELMANA(ｱｺﾞ ｳｴﾙﾏﾅ)主催による『福島 六ヶ所 未来への伝言』が上映されます。大人 1,000 円・大学生 800 円・高校生以下無料で、当上映会における収益は、映画会社への規定料金を差し引いた全額と、会場に設置する募金箱の全額を被災者の方々のために活動団体へ寄付されます。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

沢谷の赤ちゃん

貝谷　優乃(ゆの)ちゃん
平成24年12月23日生
(拓真・夏美) 石原

◆名前の由来◆
優しい子に育って欲しいという思いから、この名前にされたそうです。

今月の地域おこし協力隊

＜地産地消の仕事人と学ぶ・現地検討会＞島根会場

１月 17 日～1 月 18 日には「地産地消の仕事人と学ぶ・現地検討会」に参加しました。１日目には、JA 雲南の産直活動、木次乳業の６次産業化へ向けた取り組み、株式会社産直新聞の事例など座学で事例発表がありました。２ 日目は現地学習で松江市、雲南市の直売所を回り、現地学習を行いました。この研修には県内、県外から地産地消に関わる著名人、大学の教授、市役所の方、道の駅に携わる方などたくさんの方が参加されていました。

１番興味を持ったのは、「食の杜」での日登の郷の方が作るランチでした。バイキング形式になっており、地元の方が地元の食材を利用し、さくらご飯、煮しめ、室山あえ、おからサラダなどさまざまな地元の味の料理を提供してくれます。味が抜群においしくて、都会のチェーン店や都市部ではなかなか味わえないと感動しました。

昔からこっちに住む方々は、全く新鮮味のない普通にやっているまたは思えることでも、それに少し手を加えたり、田舎ならではのこだわりを持つことで新しい価値が生まれ、地域にお金が落ちる仕組みを構築しているのだろうとこの研修で学びました。

冬のイロハモミジ

○デマンドバスの運行予定日（2/21～3/20）

	運　行　日
2月	22 日(金)　26 日(火)
3月	１日(金)　５日(火)　８日(金)　12 日(火)　15 日(金)　19 日(火)

予約の際には、名前・住所・何名・どこからどこまで乗るかお伝えください。
予約のお電話は駅＞タクシー（℡：７５－１２３４）又は沢谷交流センター（℡：７５－１９２０）

○行事予定（2/21～3/20）

行　事	日　時	場　所
申告相談	2/25(月) 2/26(火)　8:30～17:00	多目的室・和室
フィットネスフラ	2/26(火)　20:00～	多目的室
チャレンジ教室	2/27(水)　後日連絡	交流ｾﾝﾀｰ集合
第３回策定委員会	2/27(水)　19:30～	多目的室
ウォーキング教室	2/28(木)　10:00～	現地集合
ヨガ教室	2/28(木)　19:30～　※3 月が最後となります	和室
青パトー斉行動	3/1(金)　18:00～	交流ｾﾝﾀｰ広場集合
映画上映会	3/9(土)　12:00 会場　13:00 上映開始	多目的室

〒699-4712　美郷町九日市 118 番地　沢谷公民館発行　TEL：75-1920　FAX：76-0022